

**令和5年度第1回鹿児島市病院事業経営計画策定推進委員会
(7/11開催)における委員の主な意見について**

- 1 決算資料について、表中、経営計画の右に予算値を入れ、決算値と並べる方がよいのではないか。数年経つと医業費用等、経営環境も変わってくるので予算との比較がよいと思う。
- 2 材料費が高騰する中で診療報酬は公定価格で決められており、自由に改定はできない。このような状況での経営はかなり厳しい。強い危機感を持って診療報酬を上げてもらえるよう、訴えかけていく必要がある。
- 3 入院日数の適正化については平均在院日数が11.3日とKPIにほぼ近づいているため、これ以上の短縮は難しいところまできている。市立病院は特定病院群を目指すのが正しいとしても、診療密度の低い診療科を抱えている中で、特定病院群を目指すが無理が生じるのではないかと懸念される。
- 4 医師の働き方改革の影響が看護職に出ることが懸念される。今の市立病院の働き方改革は今後の県のモデルにもなると思うので看護職の働き方改革についても検討をしてもらいたい。